

2025 年度講義要項

(介護福祉学科 2 年生用)

トリニティカレッジ
出雲医療福祉専門学校

目 次

I. 授業日程表	1
II. 資格取得時の到達目標・求められる介護福祉士像	2
III. 人間と社会	
人間関係とコミュニケーション	5
社会の理解Ⅱ	6
社会人基礎力Ⅱ	7
社会保障論	8
介護基礎講座	9
レクリエーション実践	10
IV. 介護	
介護の基本Ⅲ	13
生活支援技術（応用）	14
生活支援技術（形態別）	15
介護過程（基礎Ⅱ）	16
介護過程（展開）	17
介護総合演習Ⅱ施設②	18
介護総合演習Ⅱ施設③	19
介護実習Ⅱ施設②	20
介護実習Ⅱ施設③	21
V. こころとからだのしくみ	
発達と老化の理解Ⅱ	25
認知症の理解Ⅱ	26
障害の理解Ⅱ	27
こころとからだのしくみⅢ	28
VI. 医療的ケア	
医療的ケア（講義）	31
医療的ケア（演習）	32

VII. その他

介護総合講座	35
--------------	----

授 業 概 要

2025 年度

人間関係とコミュニケーション		講義		担当者	実務経験																				
				山本 克哉																					
				山根 真弓																					
20 回	60 時間（4 単位）	2 年 通年	必修																						
[授業の目的・ねらい] ・ チームで働く力を養うためのチームマネジメントの基礎的な知識を身につける ・ 介護実践の為に必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を習得する [授業の内容] ・ ヒューマンサービスとしての介護サービスの特徴を踏まえ、チーム運営の基本や人材育成の管理法の基礎を学ぶ ・ 学生が自己理解を深めると同時に、学生同士のお互いの関わり合いの振り返りを通して、人間関係構築におけるコミュニケーションの果たす役割について学ぶ [達成課題（到達目標）] ・ チーム運営の基本を理解できる ・ 自己理解を深める ・ 他者との人間関係形成を円滑にする具体的コミュニケーション技術が習得できる																									
[授業計画] <table><tr><td>1. 介護サービスの特性と求められるマネジメント</td><td>1. 人間関係と心理①自己覚知・他者理解</td></tr><tr><td>2. 福祉サービスの組織の機能と役割</td><td>2. 人間関係と心理②ラポール・自己開示・パーソナリティ</td></tr><tr><td>3. 組織の構造と管理</td><td>3. 対人関係とコミュニケーション①意義・目的</td></tr><tr><td>4. コンプライアンスの遵守</td><td>4. 対人関係とコミュニケーション②特徴・課程</td></tr><tr><td>5. チームの機能と構成</td><td>5. 対人関係とコミュニケーション③アサーション・ボライトネス</td></tr><tr><td>6. リーダーシップとフォロワーシップ</td><td>6. 対人関係とストレス</td></tr><tr><td>7. 業務課題の発見と解決の過程</td><td>7. 対人援助職とバーンアウト</td></tr><tr><td>8. 人材育成の方法</td><td>8. コミュニケーションの技法</td></tr><tr><td>9. モチベーションマネジメント</td><td>9. 組織におけるコミュニケーション</td></tr><tr><td>10. 筆記試験・まとめ</td><td>10. 筆記試験・まとめ</td></tr></table>						1. 介護サービスの特性と求められるマネジメント	1. 人間関係と心理①自己覚知・他者理解	2. 福祉サービスの組織の機能と役割	2. 人間関係と心理②ラポール・自己開示・パーソナリティ	3. 組織の構造と管理	3. 対人関係とコミュニケーション①意義・目的	4. コンプライアンスの遵守	4. 対人関係とコミュニケーション②特徴・課程	5. チームの機能と構成	5. 対人関係とコミュニケーション③アサーション・ボライトネス	6. リーダーシップとフォロワーシップ	6. 対人関係とストレス	7. 業務課題の発見と解決の過程	7. 対人援助職とバーンアウト	8. 人材育成の方法	8. コミュニケーションの技法	9. モチベーションマネジメント	9. 組織におけるコミュニケーション	10. 筆記試験・まとめ	10. 筆記試験・まとめ
1. 介護サービスの特性と求められるマネジメント	1. 人間関係と心理①自己覚知・他者理解																								
2. 福祉サービスの組織の機能と役割	2. 人間関係と心理②ラポール・自己開示・パーソナリティ																								
3. 組織の構造と管理	3. 対人関係とコミュニケーション①意義・目的																								
4. コンプライアンスの遵守	4. 対人関係とコミュニケーション②特徴・課程																								
5. チームの機能と構成	5. 対人関係とコミュニケーション③アサーション・ボライトネス																								
6. リーダーシップとフォロワーシップ	6. 対人関係とストレス																								
7. 業務課題の発見と解決の過程	7. 対人援助職とバーンアウト																								
8. 人材育成の方法	8. コミュニケーションの技法																								
9. モチベーションマネジメント	9. 組織におけるコミュニケーション																								
10. 筆記試験・まとめ	10. 筆記試験・まとめ																								
[事前・事後学習の内容] ・ 講義の最後に示す内容について、次回講義までに読んでくる ・ 後期は毎回実施する演習内容と教科書の内容を確認し、返却するワークシートに記入してある教員からのコメントについて振り返る																									
[教科書] 『最新・介護福祉士養成講座 人間の理解』 (中央法規)		[成績評価の方法] 【前期】筆記試験：70％・授業態度：20％・出席：10％ *但し、筆記試験の素点 60 点未満の者は再試験の対象とする 【後期】筆記試験：80％・演習への取り組み：10％ 課題提出：10％ *但し、筆記試験の素点 60 点未満の者は再試験の対象とする																							
[備考]																									

社会の理解Ⅱ		講義		担当者	実務経験
				山根 真弓	
10 回	30 時間（2 単位）	2 年 後期	必修		
[授業の目的・ねらい] ・ 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える ・ 日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する [授業の内容] ・ 自分の生活との関連性から社会や諸制度を学び、より身近なものとして生活者の視点での理解を深める [達成課題（到達目標）] ・ 個人、家族、地域、社会のしくみと、地域における生活の構造について学び、生活と社会のかかわりや自助、互助、共助、公助について理解する ・ 介護実践に必要な諸制度に関する知識を習得する					
[授業計画] 1. 虐待防止に関する制度 2. サービス利用・消費者保護に関する制度 3. 保健医療に関する制度 4. 社会保障制度 5. 生活保護制度・生活困窮者自立支援制度 6. 就労支援・雇用促進に関する制度 7. 住生活を支援する制度 8. 生活と福祉 9. 介護実践に関する諸制度 10. 筆記試験・まとめ					
[事前・事後学習の内容] ・ 講義の最後に示す内容について、次回講義までに読んでくる ・ 毎回実施する確認テストの内容を振り返り、間違った箇所は教科書やプリントで正解を確認しておく ・ 講義 2～3 回に 1 度実施する単元テストに向け学習内容を振り返り、単元の内容を確認しておく					
[教科書] 『最新・介護福祉士養成講座 社会の理解』 （中央法規）			[成績評価の方法] 筆記試験：60％・単元テスト：30％・課題提出：10％ ＊但し、筆記試験の素点 60 点未満の者は再試験の対象とする		
[備考]					

授 業 概 要

2025 年度

社会人基礎力Ⅱ		講義	担当者	実務経験
			担任	
30 回	30 時間（2 単位）	2 年 通年	必修	
[授業の目的・ねらい] 職場や地域社会において活躍する上で重要となる基礎的な能力である、社会人基礎力の習得を目指す。講義や演習などを通し、社会人として社会から求められる基礎的な素養や、自己の人生設計に関わる知識、社会人として望ましい姿勢や態度などを学ぶ。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] ・オリエンテーション ・自己の現在についての振り返り ・租税について ・情報リテラシーについて ・法律について ・就職活動について ※内容については状況や必要性を考慮し、随時、変更や追加を行う。				
[事前・事後学習の内容] 配布プリントの内容について不明点がないよう、各自で確認しておく				
[参考文献] 配布プリント等		[成績評価の方法] 出席状況：100%		
[備考]				

授 業 概 要

2025 年度

社会保障論		講義		担当者	実務経験
				山根 真弓	
10 回	30 時間（2 単位）	2 年 前期	必修		
[授業の目的・ねらい] ・現代社会の基礎的問題を理解し、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う ・人間の生活と社会の関わりを理解する ・日本の社会保障制度の歴史としくみ、基本的考え方について理解する [授業の内容] ・社会保障制度全般について概説し、より身近なものとして生活者の視点での理解を深める [達成課題（到達目標）] ・社会が個人の生活をどのように支援しているのか理解できる					
[授業計画] 1. 障害者総合支援制度 2. 社会と生活の仕組み 3. ライフスタイルの変化、家族の機能と役割 4. 社会・組織の機能、役割と地域社会 5. 地域福祉の発展、地域共生社会 6. 地域包括ケア、社会保障制度の概要 7. 日本の社会保障制度の発達としくみ 8. 社会保険制度 9. 現代社会と社会保障制度 10. 筆記試験・まとめ					
[事前・事後学習の内容] ・講義の最後に示す内容について、次回講義までに読んでくる ・毎回実施する確認テストの内容を振り返り、間違った箇所は教科書やプリントで正解を確認しておく ・講義 2～3 回に 1 度実施する単元テストに向け学習内容を振り返り、単元の内容を確認しておく					
[教科書] 『最新・介護福祉士養成講座 社会の理解』 (中央法規)			[成績評価の方法] 筆記試験：60％・単元テスト：30％・課題提出：10％ ＊但し、筆記試験の素点 60 点未満の者は再試験の対象とする		
[備考]					

授 業 概 要

2025 年度

介護基礎講座	演習	担当者		実務経験
		山根 真弓		
		藤江 隆明		○※1
		竹下 裕美		○※2
5 回	15 時間（1 単位）	2 年 後期	必修	
[授業の目的・ねらい] 介護福祉士に求められる専門的知識・技術をより確かなものにする。 [授業全体の内容の概要] 介護を中心とした三領域ごとに、またクラス単位で、国家試験過去問題、予想問題に取り組み、解説を通してより理解を深める。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] 介護福祉士の資格取得時に求められる 11 項目を習得する。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] ・ 人間と社会の領域の振り返り ・ 介護の領域の振り返り ・ こころとからだのしくみの領域の振り返り				
[事前・事後学習の内容] 模擬問題集に積極的に取り組み、配布プリントの内容について不明点がないよう、各自で確認しておく				
[教科書] 2026 年 模擬問題集（中央法規）		[成績評価の方法] 模擬試験結果 第 1 回：40% 第 2 回：60%		
[備考] ※1 介護福祉士として勤務経験を有する教員が、介護福祉士に求められる専門的知識・技術について講義する。 ※2 看護師として勤務経験を有する教員が、介護福祉士に求められる専門的知識・技術について講義する。				

授 業 概 要

2025 年度

レクリエーション実践		演習		担当者	実務経験
				國岡 義広	○
5 回	15 時間（1 単位）	2 年 前期	必修		
[授業の目的・ねらい] レクリエーション支援のために活用しやすいプログラムとレクリエーション活動を習得する。理論科目で身に付けた根拠に基づき、実技科目で習得した方法と活動を用いて、対象者と活動現場を想定したレクリエーション支援を実施・評価・改善する。 [授業の内容] レクリエーション支援のためのプログラムを実践しながら、活動現場に応じたプログラム作成・実施・評価・改善について学ぶ。 [達成課題（到達目標）] ① レクリエーション支援技術を学び、実践できる。 ② 現場実習においてレクリエーション支援実践ができ、評価・改善ができる。					
[授業計画] 1. レクリエーション活動の習得⑤：①② 2-2 2. レクリエーション支援の実施①：現場実習プログラム案実施計画① 2-3③ 2-2 3. レクリエーション支援の実施②：現場実習プログラム案実施計画②③ 2-3 4. レクリエーション支援の実施③：現場実習プログラム案実施計画実演①② 2-3 5. レクリエーション支援の実施④：現場実習プログラム案実施計画分析①② 2-3 6. レクリエーション支援の実施⑤：現場実習アレンジプログラム案実施計画①② 2-3 7. レクリエーション支援の実施⑥：現場実習アレンジプログラム案実施計画演習①② 2-3 8. 現場実習プログラム分析・評価、まとめ 2-3					
[事前・事後学習の内容] 事前に計画案を記載する。毎回授業後の評価を踏まえて、次回までに計画案を修正して授業開始時に提出する。					
[教科書] 楽しさをとおした心の元気づくり 公益財団法人日本レクリエーション協会 2017			[成績評価の方法] 出席日数・授業参加態度(30%) レポート(70%)		
[備考] 施設現場でレクリエーション業務に携わった経験を持つ教員が、企画・立案・実施・評価までの流れを、解説・実践を交えてながら指導する。					

授 業 概 要

介護の基本Ⅲ		講義・演習		担当者	実務経験
				國岡 義広	○※1
				藤江 隆明	○※2
20 回	60 時間（4 単位）	2 年 通年	必修		
「尊厳の保持」、「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。					
[授業の内容]					
・介護における安全の確保とリスクマネジメントについて概説する					
・地域における介護を受ける側、介護を予防するための関わり方について概説する					
・介護従事者の安全について概説する					
・介護福祉士の役割と機能、倫理、必要な知識を概説する					
[達成課題（到達目標）]					
① 介護福祉士の役割と機能について認識し、他者に伝える能力を身につける。					
② 介護福祉士の地域での役割について認識し、実践展開できる能力を身につける。					
③ 介護現場での緊急時対応が出来る能力を身につける。					
④ 災害時やコミュニティでの役割を認識し、必要な知識、技術を修得する。					
⑤ 介護従事者自身の健康管理の必要性を認識する。					
[授業計画]					
【前期】			【後期】		
1. 地域理解について レクリエーション活動の習得①			1. 健康管理の意義と目的		
2. 地域理解準備① レクリエーション活動の習得⑧			2. こころの健康・身体の健康管理		
3. 地域理解① 信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ②			3. 地域における介護予防の実践①		
4. 地域理解② 自主的・主体的に楽しむ力を高める展開方法①			4. 地域における介護予防の実践②		
5. 地域理解③ 自主的・主体的に楽しむ力を高める展開方法②			5. 介護における安全の確保とリスクマネジメント		
6. 地域理解④ 介護予防の視点理解①			6. 応急手当の知識と技術		
7. 地域理解⑤ 介護予防の視点理解②			7. 災害時における介護とその実践・感染症対策		
8. 地域理解⑥ 介護を受ける側の視点理解①			8. 避難訓練の実践		
9. 地域理解⑦ 介護を受ける側の視点理解②			9. 労働環境の整備		
10. まとめ			10. まとめ・筆記試験		
※レクリエーション・インストラクター取得読替(1～5)					
[事前・事後学習の内容]					
教科書を読んでおく。配布したプリントを基に復習しておく。					
[成績評価の方法]			[成績評価の方法]		
[教科書] …『最新・介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅰ第2版』			前期…出席日数・授業参加態度(30%)レポート(70%)		
『最新・介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ第2版』			後期…筆記試験(90%)課題提出(10%)		
(中央法規)			※但し後期は、筆記試験の素点 60 点未満の者は再試験の対象とする。		
楽しさをとおした心の元気づくり					
公益財団法人日本レクリエーション協会 2017					
[参考文献] …配布プリント等					
[備考]					
※1：居宅介護サービス業務責任者としての経験を持つ教員が、施設現場の実情や現場の課題等を踏まえながら講義する。					
※2：介護福祉士としての経験を持つ教員が、地域における介護予防活動の実際について講義する。					

授 業 概 要

2025 度

生活支援技術（応用）		演習		担当者	実務経験
				藤江 隆明	○
10 回	36 時間（1 単位）	2 年 通年		必修	
[授業の目的・ねらい] ・ 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出した り、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。 [授業全体の内容の概要] ・ 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術について概説する。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] ・ 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術についての根拠を説明できる。 ・ 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術について具体的にを行うことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 【前期】 1. オリエンテーション 福祉用具の活用 2. 個別援助計画の支援について① 3. 個別援助計画の支援について② 4. 実技試験、振り返り 5. 筆記試験、まとめ 【後期】 1. 支援技術を情報から読み取る 2. 現在の介護技術 3. 抽出された課題への支援 4. 実技試験、振り返り 5. 筆記試験、まとめ					
[事前・事後学習の内容] 教科書を読んでおく。配布したプリントを基に復習しておく。					
[教科書] 『最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ 第2 版』 （中央法規） 『最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ 第2 版 』 （中央法規）			[成績評価の方法] 前期 筆記試験：70％ 実技試験：30％ 後期 筆記試験：50％ 実技試験：30％ ボランティア：20％ *但し、筆記試験の素点 60 点未満の者は再試験の対象とする		
[備考] 介護福祉士として勤務経験を有する教員が、事例に基づき個別的な技術を指導する。					

授 業 概 要

2025 年度

生活支援技術（形態別）		演習		担当者	実務経験
				竹下 裕美	○
20 回	60 時間（2 単位）	2 年 通年	必修		
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] ・自立に向けた睡眠の介護、終末期の介護を概説する。 ・運動機能障害・重複障害・知的障害・高次脳障害・発達障害・重症心身障害・内部障害・精神障害・認知症といった障害・疾病の理解を深め、状態・状況に応じた生活支援技術について概説する。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] ・睡眠・終末期における介護の意義、目的、役割について理解できる。 ・障害の知識及び具体的な症状とその背景や原因について説明できる。 ・障害の種類や特性に応じた生活支援技術、他職種協働・連携していく事の重要性を理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 【前期】 1. 休息・睡眠の介護①休息・睡眠とは 2. 休息・睡眠の介護②休息・睡眠の介護、 多職種との連携 3 人生の最終段階における介護①意義と介護の役割 4. 人生の最終段階における介護②介護 5. 人生の最終段階における介護③多職種との連携 6. 障害に応じた生活支援技術Ⅰ①肢体不自由 7. 障害に応じた生活支援技術Ⅰ②視覚障害 8. 障害に応じた生活支援技術Ⅰ③聴覚・言語障害 9. 障害に応じた生活支援技術Ⅰ④重複障害 10. 筆記試験・まとめ 【後期】 1. 障害に応じた生活支援技術Ⅰ①内部障害 2. 障害に応じた生活支援技術Ⅰ②内部障害 3. 障害に応じた生活支援技術Ⅱ ③知的・精神・発達機能障害 4. 障害に応じた生活支援技術Ⅱ④高次脳機能障害 5. 障害に応じた生活支援技術Ⅱ⑤難病 6. 障害に応じた生活支援技術Ⅱ①精神障害 7. 精神障害に応じた介護 ②特別講義 8. 精神障害に応じた介護 ③見学学習 9. 在宅酸素療法について(特別講義) 10. 筆記試験・まとめ					
[事前・事後学習の内容] 教科書を読んでおく。配布したプリントを基に復習しておく。					
[教科書] 『最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ』 『最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ』 『最新・介護福祉士養成講座 14 障害の理解』 (いずれも第2版 中央法規)			[成績評価の方法] 筆記試験（80%）、 グループワーク・課題提出・出席・態度（20%）		
[備考] 看護師として勤務経験を有する教員が、障害の特性に応じ、安全に援助できる知識および技術について講義する。					

授 業 概 要

2025 年度

介護過程（基礎Ⅱ）		演習		担当者	実務経験
				山根 真弓	
10 回	30 時間（1 単位）	2 年	前期	必修	
[授業の目的・ねらい]					
他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う					
[授業の内容]					
介護を提供する対象者がどのような状態の方であれ、どのような生活場面であれ、個々の課題を理解し目標を定め、その目標を達成するための支援を導くためには介護過程という思考過程が必要である。この思考過程を概説する					
[達成課題（到達目標）]					
・利用者がその人らしい生活が送れるように介護計画（長期目標・短期目標・具体的援助内容）が立案できる					
・利用者の尊厳を守り、安全・安楽に配慮し・自立支援に基づいた援助ができる					
・実施の内容を記録に残すことができる					
[授業計画]					
1. 介護過程の展開の実際①情報の収集					
2. 介護過程の展開の実際②情報の抽出					
3. 介護過程の展開の実際③解釈・関連付け・統合化					
4. 介護過程の展開の実際④課題					
5. 介護過程の展開の実際⑤具体的援助内容の立案					
6. 介護過程の展開①介護の実施					
7. 介護過程の展開②評価					
8. 介護過程の展開の実際⑥実施のための準備					
9. 介護過程の展開の実際⑦実施の際の留意点					
10. 介護過程の展開の実際⑧実施状況の把握、記録 筆記試験・まとめ					
[事前・事後学習の内容]					
・授業で示す課題について、次回授業までに取り組んでくる					
・課題に対する添削指導について、修正に向けて取り組む					
[教科書]			[成績評価の方法]		
『最新・介護福祉士養成講座 介護過程』（中央法規）			筆記試験：40％・課題提出：50％		
介護福祉実習要綱			出席状況及び演習への取り組み：10％		
			＊但し、筆記試験の素点 60 点未満の者は再試験の対象とする		
[備考]					

授 業 概 要

2025 年度

介護過程（展開）		演習		担当者	実務経験
				山根 真弓	
				藤江 隆明	
30 回	90 時間（3 単位）	2 年	通年	必修	
[授業の目的・ねらい]					
・他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う					
[授業全体の内容の概要]					
・介護過程全体の中での評価・計画の修正の意義や方法を学び、事例を通して介護過程の実践的展開を学ぶ。また、開講途中で展開される実習Ⅱ施設③で受け持った事例から、自立に向けた介護過程の展開について理解を深める					
・介護過程を学ぶ最終段階として、様々な介護現場で活躍する介護福祉士から、現場の事例を提供願いグループで介護過程を展開し、発表するプロセスを通して、チームアプローチの実際を学び、求められるスキルを理解する					
[授業終了時の達成課題（到達目標）]					
・介護過程の評価・計画の修正の実践ができる					
・介護過程を把握し実践的に展開できる					
・様々な生活の場における、他職種との協働による介護過程の展開を理解する					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
【前期】		【後期】			
1. 介護過程の全体像		1. 事例展開について			
2. 介護過程の実践的展開の事前準備		2. 事例検討：グループワーク①課題まで			
3. 介護過程の実践的展開①情報収集		3. 事例検討：グループワーク②目標まで			
4. 介護過程の実践的展開②情報の選出、解釈・関連付け・統合化		4. 事例検討：グループワーク③具体的援助内容まで			
5. 介護過程の実践的展開③課題の抽出		5. 介護過程とチームアプローチ			
6. 介護過程の実践的展開④目標の設定、計画の立案		6. 利用者の生活と介護過程の展開			
7. 評価の目的と内容、実際の方法		7. 施設入居利用者の事例検討：個人ワーク①課題まで			
8. 介護過程の実践的展開⑤実施状況と評価		8. 施設入居利用者の事例検討：個人ワーク②目標まで			
9. 介護過程の実践的展開⑥計画の修正		9. 施設入居利用者の事例検討：個人ワーク③具体的援助内容まで			
10. 筆記試験・まとめ		10. まとめ			
		11. 実習Ⅱ施設③ 事例研究			
		12. 実習Ⅱ施設③ テーマ設定			
		13. 実習Ⅱ施設③ 資料収集①			
		14. 実習Ⅱ施設③ 資料収集②			
		15. 実習Ⅱ施設③ 事例検討①			
		16. 実習Ⅱ施設③ 事例検討②			
		17. 実習Ⅱ施設③ 資料作成①			
		18. 実習Ⅱ施設③ 資料作成②（パワーポイント等）			
		19. 実習Ⅱ施設③ 発表準備			
		20. 実習Ⅱ施設③ 事例発表			
[事前・事後学習の内容]					
教科書を読んでおく。配布したプリントを基に復習しておく。期日までに課題内容を仕上げられるよう、取り組む。					
[教科書]		[成績評価の方法]			
『最新・介護福祉士養成講座 介護過程』（中央法規） 介護福祉実習要綱		前期…筆記試験：50% 課題提出：40% 出席状況及び演習への取り組み：10% *但し、筆記試験の素点 60 点未満の者は再試験の対象とする 後期…事例検討：70% 課題提出：20% 出席：10%			
[備考]					

授 業 概 要

2025 年度

介護総合演習Ⅱ施設②		演習		担当者	実務経験
				山根 真弓	
10 回	25 時間（1 単位）	2 年	前期	必修	
[授業の目的・ねらい]					
実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする					
[授業の内容]					
実習Ⅰを通して学んだ様々な利用者に対する介護技術、多様なサービス形態の意義を整理し、実習Ⅱに向けて統合していく準備を行なう。実習Ⅱの目標と実習内容、実習Ⅱで使用する諸様式の書き方を理解し、実践できる力を養う					
[達成課題（到達目標）]					
・ 様々な利用者の生活を理解し、個別ケアとチームケアのあり方を理解できる ・ 生活支援技術の習得度に添って、自己課題を明確にできる ・ 個別ケアにおける介護過程の重要性と介護計画の立案・実施・評価に関する基本的な技術を習得する					
[授業計画]					
1. 実習Ⅰの学びの振り返り 2. 実習Ⅱ施設②の概要 3. 実習Ⅱ施設②の目標の確認 4. 介護計画の書き方 5. 実習指導者事前調整 6. 実習先事前訪問 7. 日誌の書き方 8. 実習前指導 9. 実習後指導 10. 筆記試験・まとめ					
[事前・事後学習の内容]					
・ 授業で示す課題について、次回授業までに取り組んでくる ・ 課題に対する添削指導について、修正に向けて取り組む					
[教科書]			[成績評価の方法]		
『最新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習』（中央法規） 介護福祉実習要綱			筆記試験：50％・課題提出：40％ 出席状況及び演習への取り組み：10％ ＊但し、筆記試験の素点 60 点未満の者は再試験の対象とする		
[備考]					

授 業 概 要

2025 年度

介護総合演習Ⅱ施設③		演習		担当者	実務経験
				山根 真弓	
10 回	15 時間（1 単位）	2 年	後期	必修	
[授業の目的・ねらい]					
実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする					
[授業の内容]					
一連の介護過程を実践した実習Ⅱに基づき、介護福祉士の専門性を高め、自己の振り返り・課題を中心に演習を行い、2 年生最後の実習に向けて展開を行う					
[達成課題（到達目標）]					
・ 介護過程の実践を通して、介護福祉士に求められる知識・技術を包括的に整理・理解できる					
・ 資格取得時の到達目標の 11 項目と自己を見つめ、達成度・課題を整理でき自己研鑽できる					
[授業計画]					
1. 実習Ⅱ施設③の概要・展開					
2. 自己目標の明確化					
3. 記録の書き方①（実習日誌）					
4. 記録の書き方②（利用者情報・介護計画の立案まで）					
5. 記録の書き方③（実施状況・評価・計画の修正）					
6. 介護過程 事例検討（個人ワーク）					
7. 施設理解（事前訪問）					
8. 実習前指導					
9. 習後指導					
10. 筆記試験・まとめ					
[事前・事後学習の内容]					
・ 授業で示す課題について、次回授業までに取り組んでくる					
・ 課題に対する添削指導について、修正に向けて取り組む					
[教科書]			[成績評価の方法]		
『最新・介護福祉士養成講座			筆記試験：50％・課題提出：40％		
介護総合演習・介護実習』（中央法規）			出席状況及び演習への取り組み：10％		
介護福祉実習要綱			＊但し、筆記試験の素点 60 点未満の者は再試験の対象とする		
[備考]					

授 業 概 要

2025 年度

介護実習Ⅱ施設②		実習		担当者	実務経験
				専任教員	
				実習指導者	○
—	117 時間（3 単位）	2 年	前期	必修	
[授業の目的・ねらい]					
・介護サービスを提供する対象・場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う ・自立支援の観点から介護実践できる能力を養う ・利用者のみならず、家族等に対する精神的支援や援助のために、実践的なコミュニケーション能力を養う ・他の職種との協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できる能力を養う ・リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う					
[授業の内容]					
一つの施設・事業等において一定期間以上継続して実習を行なう中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践する					
[達成課題（到達目標）]					
・利用者の生活史や価値観に配慮した関わりができる ・利用者及び利用者を取り巻く人とのコミュニケーションが促進できる ・指導を受けながら利用者の特性に応じた生活支援技術を行うことができる ・指導者の助言を受けながら利用者の個別性に応じた介護計画を立案できる ・利用者の生活を支える様々な職種の役割と介護福祉士とのつながりについて述べるができる					
[授業計画]					
・実習施設の概要、機能についてオリエンテーションを受ける ・施設内見学を行う ・利用者とふれあう機会を多く持ち、利用者の様々な生活ニーズを把握する ・利用者の障害レベルに対応した生活支援技術を実践する ・実習指導者の指導の下に、1 名の利用者を受け持ち、個別性に応じた介護過程を展開する					
[事前・事後学習の内容]					
・学校で学んだ内容を実践に繋げることができるよう、教科書・プリント等を見直しておく ・日々の実習で出会った疑問点は早急に解決するよう自ら取り組む					
[教科書]			[成績評価の方法]		
『最新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習』（中央法規） 介護福祉実習要綱			別に定める実習評価表に基づき、成績評価を行う		
[備考]					
介護福祉士として勤務する実習指導者が、実際の業務に基づいて介護福祉士に必要な知識・技能について指導する					

授 業 概 要

2025 年度

介護実習Ⅱ施設③		実習		担当者	実務経験
				専任教員	
				実習指導者	○
—	180 時間（6 単位）	2 年 後期	必修		
[授業の目的・ねらい] ・介護サービスを提供する対象・場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う ・自立支援の観点から介護実践できる能力を養う ・利用者のみならず、家族等に対する精神的支援や援助のために、実践的なコミュニケーション能力を養う ・他の職種との協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できる能力を養う ・リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う [授業の内容] 一つの施設・事業等において一定期間以上継続して実習を行なう中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践する [達成課題（到達目標）] ・人権尊重の倫理を踏まえた介護の実践ができる ・利用者及び利用者を取り巻く人との円滑なコミュニケーションが実践できる ・利用者の特性や障害に応じた生活支援技術を実践し、介護実践の根拠を的確に記録することができる ・利用者の個別性に応じた介護計画の立案・実施・評価とこれを踏まえた計画の修正ができる ・利用者のQOLを支えるためのチームワークについて述べるができる					
[授業計画] ・実習施設の概要、機能についてオリエンテーションを受ける ・施設内見学を行う ・利用者とふれあう機会を多く持ち、利用者の様々な生活ニーズを把握する ・利用者の障害レベル及び自立度に対応した生活支援技術を実践し、根拠を記録に残す					
[事前・事後学習の内容] ・学校で学んだ内容を実践に繋げることができるよう、教科書・プリント等を見直しておく ・日々の実習で出会った疑問点は早急に解決するよう自ら取り組む					
[教科書] 『最新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習』（中央法規） 介護福祉実習要綱			[成績評価の方法] 別に定める実習評価表に基づき、成績評価を行う		
[備考] 介護福祉士として勤務する実習指導者が、実際の業務に基づいて介護福祉士に必要な知識・技能について指導する					

授 業 概 要

2025 年度

発達と老化の理解Ⅱ		講義		担当者	実務経験
				馬渕 芳美	
11 回	30 時間（2 単位）	2 年 後期	必修		
[授業の目的・ねらい] 発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する [授業内容] 人間の成長と発達の基礎的知識、老年期の発達と成熟、老化に伴うこころとからだの変化と日常生活、高齢者の疾病と生活上の留意点について概説する。 [達成課題（到達目標）] ・人間の成長と発達の基礎的理解をふまえ、老化に伴う心身の変化の特徴について説明できる。 ・高齢者に多い疾病と生活上の留意点について説明できる。					
[授業計画] 1. 老化に伴うこころとからだの変化と生活 2. ①老化に伴う身体的な変化と生活への影響 3. ②老化に伴う心理的な変化と生活への影響 4. ③老化に伴う社会的な変化と生活への影響 5. 高齢者と健康 6. ①健康長寿に向けての健康 7. ②高齢者の症状・疾患の特徴 8. ③高齢者に多い疾患、症状と生活上の留意点 9. ④保健医療職との連携 10. ふりかえり、まとめ 11. 筆記試験					
[事前・事後学習の内容] 教科書を読んでおく。配布したプリントを基に復習しておく。					
[教科書] 『最新・介護福祉士養成講座 発達と老化の理解（第2版）』			[成績評価の方法] 筆記試験（80%）、課題提出・出席・態度（20%）		
[備考]					

授 業 概 要

2025 年度

障害の理解Ⅱ		講義	担当者	実務経験
			清原 圭介	○
10 回	30 時間（2 単位）	2 年 前期	必修	
[授業の目的・ねらい] 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。				
[授業全体の内容の概要] 障害の基礎的理解、医学的側面の基礎的知識をふまえ他職種との連携と協働、家族への支援について概説する。				
[授業終了時の達成課題（到達目標）] さまざまな障害についての基礎的知識について説明でき、他職種との連携、家族への支援の重要性について理解できる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 障害の医学的・心理的側面の基礎的理解基礎的理解、障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 1. 障害の医学的側面の基礎的知識と特性に応じた支援Ⅰ①障害のある人の心理、肢体不自由（運動機能障害） 2. 障害の医学的側面の基礎的知識と特性に応じた支援Ⅰ②視覚障害、聴覚・言語障害、重複障害 3. 障害の医学的側面の基礎的知識と特性に応じた支援Ⅰ③内部障害（心臓機能障害、呼吸器機能障害） 4. 障害の医学的側面の基礎的知識と特性に応じた支援Ⅰ④内部障害 （腎機能障害、膀胱・直腸機能障害） 5. 障害の医学的側面の基礎的知識と特性に応じた支援Ⅰ⑤内部障害 （小腸機能障害・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害、肝臓機能障害） 6. 障害の医学的側面の基礎的知識と特性に応じた支援Ⅰ⑥ （知的障害、精神障害、高次脳機能障害、発達障害、難病） 7. 連携と協働 8. 家族への支援 9. おさらい、まとめ 10. 筆記試験				
[事前・事後学習の内容] ・教科書を事前に読んでおく。 ・配布した資料、確認プリントを復習する。				
[教科書] 『最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ（第2版）』 『最新・介護福祉士養成講座 14 障害の理解（第2版）』（以上2冊 中央法規）		[成績評価の方法] 筆記試験（70%）、課題提出・出席・態度（30%）		
[備考] 言語聴覚士として勤務経験を有する教員が、さまざまな障害における基礎的知識について講義する。				

授 業 概 要

2025 年度

認知症の理解Ⅱ		講義		担当者	実務経験
				竹下 裕美	○
15 回	30 時間（2 単位）	1 年 後期	必修		
[授業の目的・ねらい] 認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。 [授業全体の内容の概要] 認知症の中核症状と周辺症状を理解し、介護者を悩ます行動傷害についてもその背景を理解することで具体的な対応策につなげられることを学ぶ。また若年期に発症した認知症の人やその家族に対する支援についても学ぶ。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 認知症による障害、原因となる主な疾病と、検査や治療、認知症の人の特徴的な心理と行動、認知症の人を支える家族への支援、認知症と間違えられやすい症状（うつ、せん妄、失語、失行・失認など）との区別、機能の変化と日常生活への影響。地域のサポート体制について理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 認知症を取り巻く状況①認知症とは何か 2. 認知症を取り巻く状況②脳のしくみ 3. 認知症を取り巻く状況③認知症の人の心理 4. 認知症の症状・診断・治療・予防①中核症状の理解（記憶障害・見当識障害・遂行機能障害） 5. 認知症の症状・診断・治療・予防②中核症状の理解（空間認知障害・視覚認知障害・社会脳） 6. 認知症の症状・診断・治療・予防③中核症状の理解（失語・失行・失認のような症状・病識低下） 7. 認知症の症状・診断・治療・予防④生活障害の理解、医学的側面から見た認知症の基礎 8. 認知症の症状・診断・治療・予防⑤BPSDの理解 9. 認知症の症状・診断・治療・予防⑥認知症の診断と重症度 10. 認知症の症状・診断・治療・予防⑦認知症の原因疾患と症状・生活障害（アルツハイマー型認知症） 11. 認知症の症状・診断・治療・予防⑧認知症の原因疾患と症状・生活障害（血管性認知症） 12. 認知症の症状・診断・治療・予防⑨認知症の原因疾患と症状・生活障害（レビー小体型・前頭側頭型認知症） 13. 認知症の症状・診断・治療・予防⑩認知症の原因疾患と症状・生活障害（治療可能な認知症・若年性認知症） 14. 認知症の症状・診断・治療・予防⑪認知症の治療薬、認知症の予防 15. 筆記試験・まとめ					
[事前・事後学習の内容] 事前に教科書の該当箇所を読んでおく。					
[教科書] 『最新・介護福祉士養成講座 認知症の理解 第2版』（中央法規）		[成績評価の方法] 筆記試験：70％・授業態度：20％・出席：10％			
[備考] 看護師として勤務経験を有する教員が、認知症に関する基礎的知識について講義する。					

授 業 概 要

2025 年度

こころとからだのしくみⅢ		講義	担当者	実務経験										
			竹下 裕美	○										
10 回	30 時間（2 単位）	2 年 後期	必修											
[授業の目的・ねらい] 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。 [授業全体の内容の概要] 排泄、睡眠に関連したこころとからだのしくみ、死にゆく人のこころとからだのしくみについて概説する。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] ①排泄、睡眠に関連したこころとからだのしくみについて学び機能の低下が及ぼす影響について理解することができる。 ②死にゆく人のこころとからだのしくみ、医療職との連携について理解できる。														
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] <table><tr><td>1. 排泄に関連したこころとからだのしくみ ① 排泄のしくみ</td><td>6. 人生の最終段階のケアに関連した こころとからだのしくみ 「死」のとらえ方</td></tr><tr><td>2. 排泄に関連したこころとからだのしくみ ② 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響</td><td>7. 人生の最終段階のケアに関連した こころとからだのしくみ 「死」に対するこころの理解</td></tr><tr><td>3. 排泄に関連したこころとからだのしくみ ③ 変化の気づきと対応</td><td>8. 終末期から危篤状態、死後のからだの理解</td></tr><tr><td>4. 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ ① 休息・睡眠のしくみ ② 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響</td><td>9. 終末期における医療職との連携</td></tr><tr><td>5. 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ ③ 変化に気づくためのポイント</td><td>10. 筆記試験</td></tr></table>					1. 排泄に関連したこころとからだのしくみ ① 排泄のしくみ	6. 人生の最終段階のケアに関連した こころとからだのしくみ 「死」のとらえ方	2. 排泄に関連したこころとからだのしくみ ② 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響	7. 人生の最終段階のケアに関連した こころとからだのしくみ 「死」に対するこころの理解	3. 排泄に関連したこころとからだのしくみ ③ 変化の気づきと対応	8. 終末期から危篤状態、死後のからだの理解	4. 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ ① 休息・睡眠のしくみ ② 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響	9. 終末期における医療職との連携	5. 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ ③ 変化に気づくためのポイント	10. 筆記試験
1. 排泄に関連したこころとからだのしくみ ① 排泄のしくみ	6. 人生の最終段階のケアに関連した こころとからだのしくみ 「死」のとらえ方													
2. 排泄に関連したこころとからだのしくみ ② 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響	7. 人生の最終段階のケアに関連した こころとからだのしくみ 「死」に対するこころの理解													
3. 排泄に関連したこころとからだのしくみ ③ 変化の気づきと対応	8. 終末期から危篤状態、死後のからだの理解													
4. 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ ① 休息・睡眠のしくみ ② 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響	9. 終末期における医療職との連携													
5. 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ ③ 変化に気づくためのポイント	10. 筆記試験													
[事前・事後学習の内容] 教科書を読んでおく。配布したプリントを基に復習しておく。														
[教科書] 『最新・介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ（第2版）』（中央法規）		[成績評価の方法] 筆記試験（80%）、出席・態度・課題（20%）												
[備考] 看護師として勤務経験を有する教員が、排泄、休息・睡眠、人生の最終段階に関するこころとからだのしくみについて講義する。														

授 業 概 要

2025 年度

医療的ケア（講義）		講義		担当者	実務経験
				竹下 裕美	○
16 回	50 時間（3 単位）	2 年 前期	必修		
[授業の目的・ねらい] 医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な基礎的知識を習得する。 [授業全体の概要] 医療的ケアを行う上で必要な医学的知識や倫理について概説する。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] ①医療的ケアを行う上で必要な医学的知識の基礎や倫理を理解することができる。 ②利用者にとって安全、安楽な医療的ケアの方法を理解することができる。 ③リスクの想定とリスクへの対応方法が理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 2. 医療的ケア実施の基礎①医療的ケア 3. 4. 医療的ケア実施の基礎②安全な療養生活 5. 6. 医療的ケア実施の基礎③清潔保持と感染予防 7. 8. 医療的ケア実施の基礎④健康状態の把握 9. 10 喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）①高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 11. 12. 喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）②高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 13. 14. 経管栄養（基礎的知識・実施手順）①高齢者および障害児・者の経管栄養概論 15. 経管栄養（基礎的知識・実施手順）②高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 16. 筆記試験					
[事前・事後学習の内容] 事前に教科書を読んでおく。事後は教科書や配布したプリントを基に復習しておく。					
[教科書] 『最新・介護福祉士養成講座 医療的ケア（第2版）』（中央法規）			[成績評価の方法] 筆記試験（100%） ただし、欠席時間の多い学生は補講対象、筆記試験結果が9割未満の学生は再試対象とする。		
[備考] 看護師経験のある教員が、医療的ケアに関して必要な知識・技術について講義する。					

授 業 概 要

2025 年度

医療的ケア（演習）		演習		担当者	実務経験
				竹下 裕美	○
5 回	20 時間（1 単位）	2 年 後期	必修		
[授業の目的・ねらい] 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 [授業全体の概要] 医療的ケアの講義を踏まえ、利用者にとって安全、安楽な技術の実践について概説する。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] ①清潔・不潔について理解できる。 ②医療的ケアが安全に施行できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 口腔内・鼻腔内の喀痰吸引、 気管カニューレ内部の喀痰吸引、胃ろう又は腸ろうによる経管栄養、鼻腔経管栄養、救急蘇生法について、講義で身につけた知識を人形を使用して実施することで、手技や流れを身につける。 1. 口腔内・鼻腔内の喀痰吸引の演習 2. 気管カニューレ内部の喀痰吸引の演習 3. 胃ろう又は腸ろうによる経管栄養の演習 4. 鼻腔経管栄養・救急蘇生法の演習 5. 実技試験					
[事前・事後学習の内容] 教科書を読み、教科書内の AR 動画を見ておく。配布した資料、デモンストレーションを参考に実技の復習を行う。					
[教科書] 『最新・介護福祉士養成講座 医療的ケア（第2版）』（中央法規）				[成績評価の方法] 実技試験（100%）	
[備考] 看護師経験のある教員が、医療的ケアに関して必要な知識・技術について講義する。					

授 業 概 要

2025 年度

介護総合講座	演習	担当者	実務経験
		山根 真弓	
		藤江 隆明	○※1
		竹下 裕美	○※2
15 回	30 時間（1 単位）	2 年 後期	必修
[授業の目的・ねらい] 介護福祉士に求められる専門的知識・技術をより確かなものにする。			
[授業全体の内容の概要] 介護を中心とした三領域ごとに、またクラス単位で、国家試験過去問題、予想問題に取り組み解説を通してより理解を深める。			
[授業終了時の達成課題（到達目標）] 介護福祉士の資格取得時に求められる 11 項目を習得する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] ・ 人間と社会の領域の振り返り ・ 介護の領域の振り返り ・ こころとからだのしくみの領域の振り返り			
[事前・事後学習の内容] 模擬問題集に積極的に取り組み、配布プリントの内容について不明点がないよう、各自で確認しておく			
[教科書] 2026 年 模擬問題集（中央法規）		[成績評価の方法] 出席状況：100%	
[備考] ※1 介護福祉士として勤務した経験のある教員が介護福祉士の資格取得時に求められる、介護の領域の振り返りを行う。 ※2 看護師として勤務した経験のある教員が介護福祉士の資格取得時に求められる、こころとからだのしくみの領域の振り返りを行う。			